

計量経済学 (2 単位)

担当者氏名

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

本授業では、農業や環境に関して、計量経済学による分析方法を学ぶ。特に、個人の行動原理に立脚した非集計行動モデルに着目して、モデルの推定、検定、データの収集、モデルによる予測などに関して理論的に理解することを到達目標とする。本授業では、様々なロジットモデルに関する講義を行うので、モデルの推定、検定、予測などに関する大学院修士課程レベルの統計学の知識を必要とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

非集計行動モデル	モデルの推定	検定	サンプリング
予測	ロジットモデル	統計ソフト	

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス	・ガイダンスを実施する	本授業のねらいは、計量経済学の理論と応用について理解し、論文において分析手法を適用できるようにすることである。事前の学習により、講師に質問する等により、授業内容を理解する必要がある。事前の予習及び復習は理解できるまで 1~2 時間程度行うこと。また、関連する論文を探して授業中に発表すること。
2	ロジットモデル	・ロジットモデルなど	
3	非集計行動モデル	・非集計行動モデルの意義	
4	モデルの理論展開(1)	・非集計行動モデルの理論展開(1)	
5	モデルの理論展開(2)	・非集計行動モデルの理論展開(2)	
6	二項ロジットモデル	・二項ロジットモデルの推定と検定	
7	多項ロジットモデル	・多項ロジットモデルの推定と検定	
8	入れ子型ロジット	・入れ子型ロジットモデルの推定と検定	
9	調査とデータ作成(1)	・調査項目の設定	
10	調査とデータ作成(2)	・サンプリングと調査方法	
11	標本抽出法	・様々な標本抽出法とその特徴	
12	モデルによる予測(1)	・非集計行動モデルによる予測(1)	
13	モデルによる予測(2)	・非集計行動モデルによる予測(2)	
14	統計ソフトでの分析(1)	・統計ソフトを利用した分析(1)	
15	統計ソフトでの分析(2)	・統計ソフトを利用した分析(2)	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)

非集計行動モデルの理論と実際/土木学会/土木学会 (1995)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)

計量経済学/田中勝人/岩波新書 (1998)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

試験で全て評価する。ただし、理由なく欠席をするたびに減点する。

◆オフィスアワー

水曜日 5 限目。研究室。

◆その他受講上の注意事項

大学院修士課程レベルの統計学の知識を前提として授業を進めます。また、パソコンを利用する場合があるので、少なくとも Excel や SPSS などを使いこなせるようにして下さい。